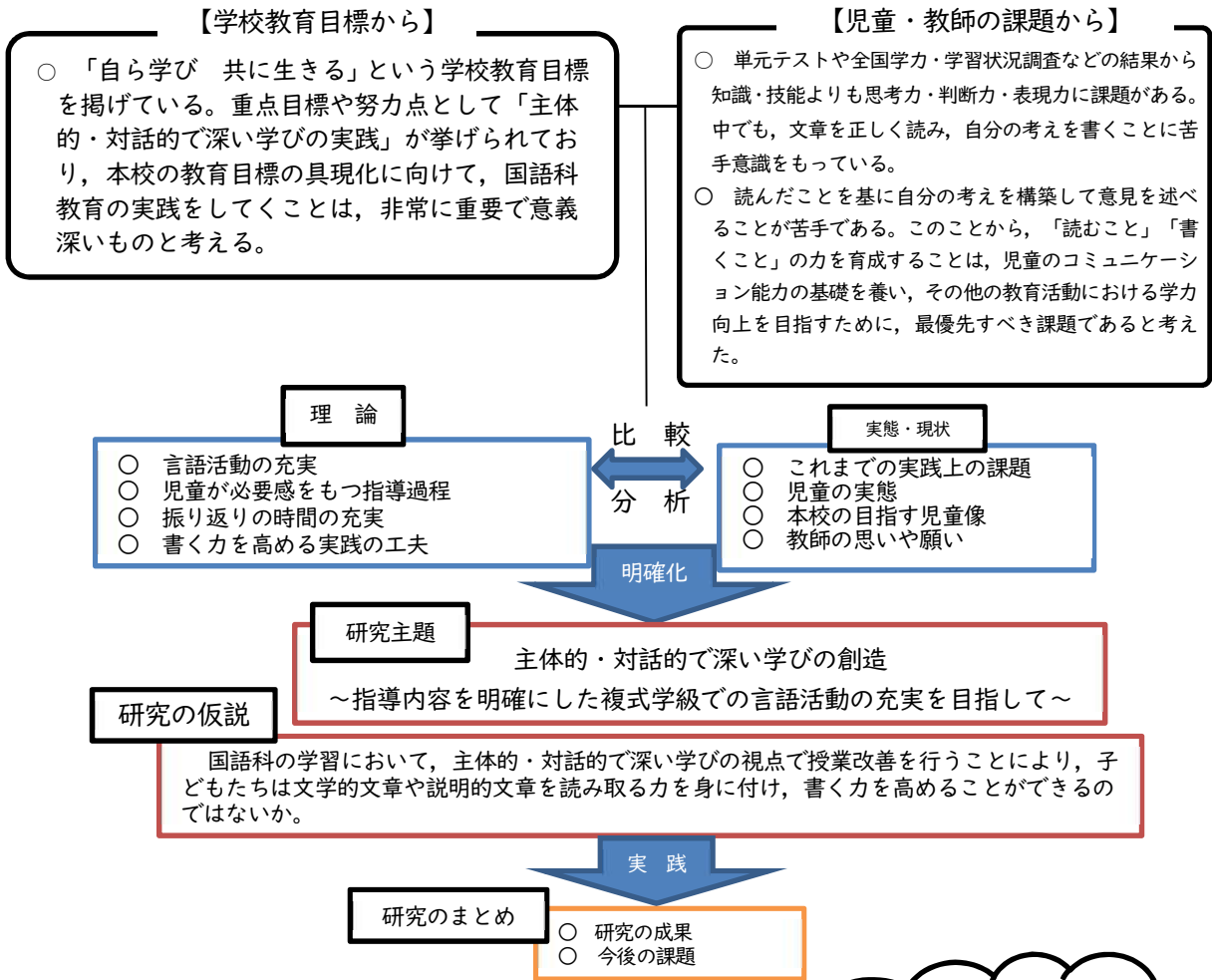


1 研究の概要

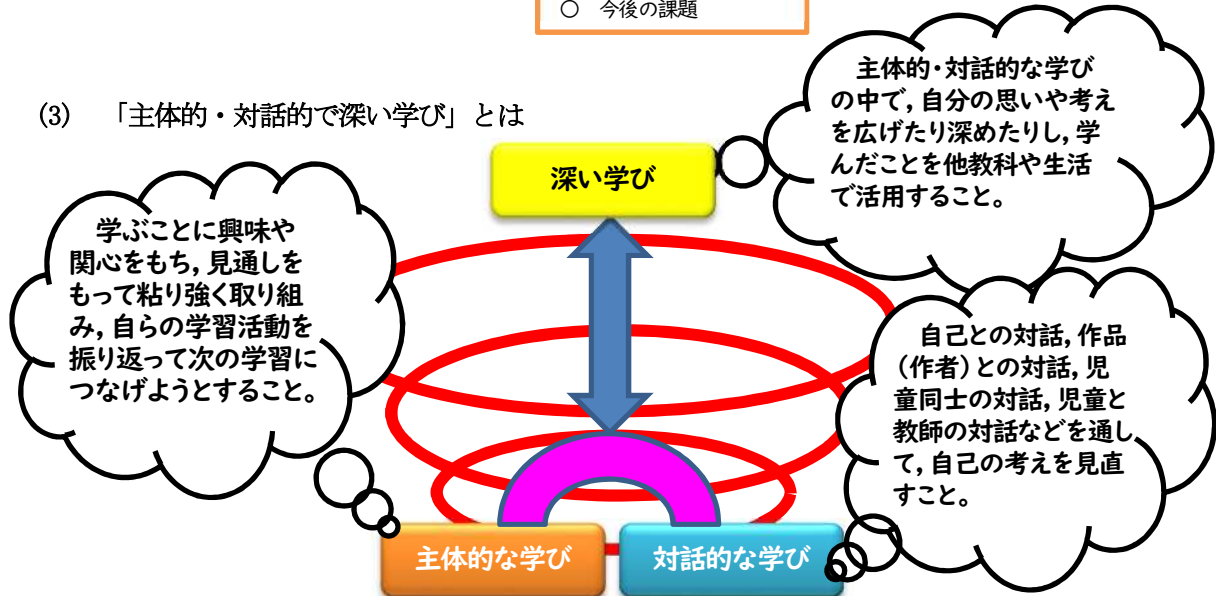
(1) 研究主題

主体的・対話的で深い学びの創造
～指導内容を明確にした複式学級での言語活動の充実を目指して～

(2) 研究の全体構想



(3) 「主体的・対話的で深い学び」とは



2 研究の実際

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する単元の構想について

単元を通して、児童にどのような力を身に付けていくのかを明確にし、児童の課題意識を持続させるための言語活動を設定できるように図1の授業構想シートを作成した上で授業に取り組んだ。指導事項の系統性や既習事項を考慮しながら、単元の目標や言語活動を考えることで教師も児童も単元全体を意識した取組ができた。

<p>学 年 2</p> <p>単元 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果や文章を読んで理解したことに基づいてよめた意見や感想を共感させること。</p> <p>単元名・教材名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう。「やまなし」</p> <p>単元を通して身に付ける力(単元の目標)</p> <p>① 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【思考・判断・表現C(1)エ】 ② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【思考・判断・表現C(1)オ】 ③ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 【知識・技能(1)ウ】 ④ 盛り盛り強の世界を想像し、学習の見直しをもって、物語に対する思いや考えを書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>単元を貫く言語活動 物語を資料と道徳を読み、作品の世界について自分の考えを書こう。</p> <p>単元指導計画</p> <p>主な学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 取り敢えず言語活動を始める。 2 学習課題をつかむ。 作品の世界をとらえ、自分の考えを伝え合おう。 3 試しの活動に取り組む。 4 方法課題を話し合い、本単元の学習への見直しをする。 5 やまなしは、どのような人物が登場し、どんな物語なのだろうか。(物語の内容に向かう問い) 6 作品の世界をとらえるには、どのようにすればいいだろうか。(表現方法に向かう問い) 7 単元の学習計画を立てる。 8 教材を読み、物語の感想をまとめる。 9 「やまなし」と学習計画を基に進め始める。 五月と十二月の物語は、どんな内容なのかを単元で表す。 10 かなが生活する谷川はどんな様子なのかを調べる。 <p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題名からどのような物語かを話し、試しの活動に取り組むことへの興味・関心を高めることにも、必要感をもちがちなように、作品の世界をとらえるためには、文章おぼえの読み取りを交換することがある。 ○ 単元のゴールを意識させるため、グッドモデルを提示する。子どもがよくなりたいという気持ちをもたせる。 ○ 学習課題を把握した後、教材本文を学習したりすること、学習を進められるようにする。 ○ この物語を讀むことで、作者の意図が作品に込められた意図などを掘り起こしに行っていく。 ○ 初歩の音読で、子どもが興味をもつことや疑問に思ったことを中心に、前のに現れたものや人物をよめる内容の共通理解を図る。 ○ 行動や構構、心情描写などの 	<p>単元で身に付けさせる国語の能力(指導事項)を明確にする。複式指導になるので、2学年で繰り返し取り組み、技能を定着させる。</p>	<p>指導事項に向け、この単元で身に付けるべき力を単元の目標として定める。そして、系統性や既習事項を考慮しながら、具体的な指導内容を明確にする。</p>	<p>指導事項や指導目標、指導内容を明確にしたあとに、単元のための言語活動を設定する。指導事項を明確にすることで、単元を通して児童も見直しをもって学習に取り組むことができる。</p>
--	---	--	---

【図1 授業構想シート】

図2は主体的・対話的で深い学びを行うための、1単元のための主な学習計画例である。常に、教材文を読むことと他の言語活動とを関連付けられるようにした。具体的には、「物語の世界を捉え、自分の考えを伝え合う」という言語活動であれば、場面ごとに読む活動を行い、登場人物の心に残った行動や言葉、情景表現などを探し、ペアや全体で話し合った。終末の振り返りでは、宮沢賢治の物語の世界について気付いたことをノートに記録させた。単元を通して、終末時の言語活動を意識させ、読むことの必要感をもたせるようにした。

	主な学習活動	具体的な学習活動
1	【導入】 学習課題の設定 解決課題の設定 学習計画の作成	〈導入〉(物語の面白さを紹介しよう) ・ 試しの活動から学習課題を設定する。 ・ 終末時の言語活動を明確にする。 ・ 学習計画を作成する。
2	【展開】 単元の課題解決と単元の目標となる言語活動を支える学習活動を行う。 1単位時間において、言語活動につながる活動を設定する。	〈展開〉(物語の面白さを紹介しよう) ・ 物語の面白さを紹介するための読む活動(行動・場面の様子、気持ちの変化など、必要な指導事項) ・ 1単位時間において、小さな言語活動を取り入れる。(場面ごとのおもしろポイントを書きためていく。)
3		・ 常に、終末時の言語活動を意識して、1単位時間に必要感をもたせる。
4		〈終末〉(物語の面白さを紹介しよう) ・ 1単位時間で書きためた振り返り(ミニ言語活動)を活用して、終末時の言語活動を入れる。(試しの活動で書いた文章と比較させ、学習の有用感を高める。)
5	【終末】 児童に付けた力をつけるための言語活動	

【図2 学習計画例】

(2) モデル文の作成（主体的な学び）

単元の導入で試しの活動に取り組んだ。この単元で取り組む言語活動に一度取り組んでみることで、「今の自分には何が足りないのか。」「教材から何を読まないといけないのか。」「どんな表現の仕方を学ばないといけないのか。」を児童が自分たちで実感できるようにしている。このことが主体的な学びにつながっていくと考える。試しの活動に取り組んだ後に、モデル文を児童に示すことで、「単元を学んだ後には、こんな文章が書けるようになりたい。」という意欲を高めることができる。また、図3のようなエラーモデル・グッドモデルを示すことで試しの活動で取り組んだものと比較させるようにしている。

【モデル文の作成】
各単元においてモデル文を作成し、教児共に見通しをもって言語活動に取り組めるようにする。
また、グッドモデルとエラーモデルから、書き方のポイントを児童が気付くことができるようにする。

【指導内容の明確化】
指導内容を明確化し、意識的に指導できるようにする。形式や字数などを設定し、系統を考える。

まず、本単元で身に付けさせたい力は何か、児童の実態把握とともに、指導事項を確認して、言語活動を設定したあと、各単元における具体的な指導内容を明確にし、指導内容を基に、モデル文を作成した。その際、教科書の参考例や新聞等も活用しながら作成したが、授業を進める中で児童の実態に合わなかったものや修正する必要があるものは、児童の作品を修正してモデル文とした。

写真 具体的なモデル文例

ガイド学習をスムーズに進めていくために、写真資料や本時の学習について、モデル文を電子黒板で表示するようにしている。ガイドは、表示されているロイロノートを基に学習を進めていく。5年生「たずねびと」の単元では、自分の考えだけを書いた文をエラーモデルとして示した。グッドモデルには、たずねびとから読み取ったことや主人公の変化、さらに自分の考えが書いてある文を用意した。グッドモデルとバッドモデルを比較・検討することで、これまでに単元で学習してきたことを生かして自分の考えをまとめることが大切だということに気付いていた。単元のゴールとして、「物語の主人公を通して、戦争について自分の考えをまとめる」という主体的な学びが進められるようにした。

エラーモデル

グッドモデル

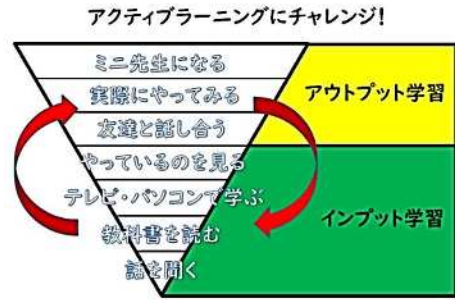
比較・検討

【図3 エラーモデルとグッドモデルの提示】

(3) 学び合いの時間の設定（対話的な学び・深い学び）

対話活動を充実させていくために、授業中での学び合いを価値付けることが大切だと考える。

図4は、アメリカ国立訓練研究所で提唱されたラーニングピラミッドを改変したものである。知識の定着度がピラミッドの上に行けば行くほど高いことが分かる。また、多様な学習方法で学ぶことで学習内容が定着してくことも分かる。そのため、児童の学び合いの場面で、分かった人がまだ分かっていない人に教えることは自分のためにもなることを価値付けている。



【図4 ラーニングピラミッド】

読みの視点に沿った一人調べから、学び合いの時間（対話活動）を設定する。学び合いの時間では、一人調べの際、叙述を根拠にしながら自分の考えを形成し、それを基に対話を行う。教師が積極的に話し合いに関わり、話し合いの論点を焦点化することで、児童の考えが広がったり、根拠をより明確にしたりする深い学びにつながると考える。（図5）

サイドライン
書き抜く
要約して書く
自分の考えを書く
ワークシートの工夫
【読みの視点に沿った一人調べ】

考え+根拠
考え+根拠
根拠を基にした話し合い
教師の関わり
論点の焦点
【学習形態】
・ペア
・全体
・フリートーク
考えの広がり
考えの深化

【ガイドを中心とした全体での話し合い】

【フリートーク】

【根拠を基にしたペアでの話し合い】

どの教科においても、ガイド学習に取り組むことで、自分たちで学習を進めていこうとする意欲が高まってきている。フォロワーとしての役割もとても重要であり、ガイドが困っている時にはみんなまで話し合いながら学習を進めることができる。

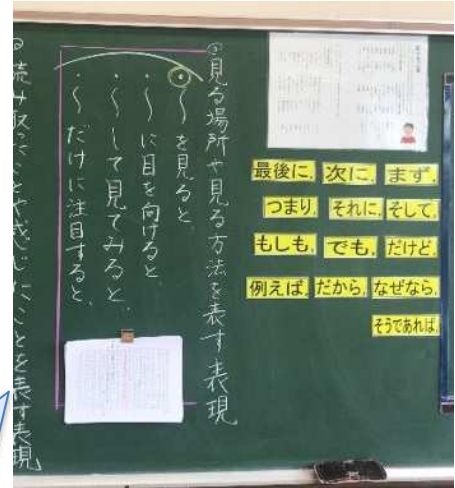
なお、教科書はページをめくる必要があり、文章全体を俯瞰して読むことが難しい。そこで、全文表を用意することで、サイドラインを引いた文章を比較したり、話し合ったりする活動が取り組みやすくなった。

【図5 読みの視点に沿った一人調べと学び合い（対話活動）の設定】

(4) 思考語彙カード (主体的・対話的な学び)

4年生で、「つなぎ言葉」を学習する。つなぎ言葉があることで、文と文との関係をはっきりさせることができることを学んだ。そこで、対話を始めるためには自分の考えをもつことがスタートになる。児童によっては、考えが浮かばずに、思考がストップしてしまうことがある。そのような場合に、考えるためや書き始めるためのきっかけとして、写真1の思考語彙カードを活用している。なお、このカードは、全教科で活用している。

『鳥獣戯画を読む』の学習では、「もしも」のカードを活用した。「もしも、鳥獣戯画の絵が1枚しか使われていなかったら?」と問いかけ、筆者が絵巻物について分かりやすく伝えるために、2枚の絵を使っていることを考えることができた。筆者の論の展開を説明する活動で、思考がストップしていた児童が、「筆者は絵巻物の説明をするときに、分かりやすく伝える工夫をしている。」と書き始めていた。



【写真1 思考語彙カード】

(5) ギャラリーウォーク・フリートークの設定 (主体的・対話的な学び)

学び合いを充実させていくために「ギャラリーウォーク・フリートーク」の実践を行った。

「ギャラリーウォーク」とは、美術館を歩くように静かに立ち歩き、他の児童の活動やノートを見合う活動である。特別に支援を要する児童にとっても、学び合いの視点からも利点の多い活動だと考える。自分はヒントが必要なのか、もう少し考えれば答えを出せるのかを自己内対話したり、少ない時間で友達の考えを知ったりすることもできる。

「フリートーク」は自由に歩き回って、意見交換を行うことである。フリートークでは、友達の考えと比較しながら聞くことが大切になる。意見が同じ場合でも理由や根拠が違うこともあるという多様性に気付き、自分と違う意見を聞く際には、問い返しや質問、説得という対話的な学びの機会になる。ペア・グループ学習の時だけでなく、フリートークの際も「ペア・グループ学習パワーアップカード」を参考にしながら、学び合いを設定している。

ギャラリーウォーク・フリートークのメリット

- 1 認められた離席の機会がある。
- 2 意図的に静かな状況をつくる。
- 3 覚醒レベルを保ち、集中を取り戻す。
- 4 支援を必要とする子に支援がしやすい。
- 5 自分で自分の状況を判断する力を育む。(自己モニタリング)
- 6 自分にとって、ほしい情報をもっていることのできる友達を理解する。(他者理解)
- 7 短時間で全体の意見を交流することができる。

ペア・グループ学習パワーアップカード

一人で考えた後に、自分の考えを広げたり深めたりするために、ペア学習やグループ学習に取り組みます。ペア学習やグループ学習をするときに、大切なことが書いてあります。みんなで心がけて、話し合いをパワーアップさせましょう。

一 順番に全員が発表しましょう。

二 ペアやグループのみんなに聞こえるような、大きな声で発表しましょう。

三 友達の考えを聞くときは、自分の考えとくらべながら聞きましょう。

四 友達の考えを聞くときは、思いやりの気持ちをもって聞きましょう。

友達の発表に反応して、話し合いをパワーアップさせよう。

共感するとき
「なるほどね。」「だよな。」「そのとおりだね。」「いい考えたね。」「考えが同じだったとき。」「ほくも同じ考えだった。」「わたしもそう思う。」「どう思う?」「うん、そう思う。」「もう少し詳しく教えて。」「うん、そう思う。」「わたしは...と思うけど...」

相手の考えをよく分らないとき
「もう少し詳しく教えて。」「うん、そう思う。」「わたしは...と思うけど...」

相手の考えを聞く
「うん、そう思う。」「わたしは...と思うけど...」

話を進めるとき
「うん、そう思う。」「わたしは...と思うけど...」

相手にかくにんするとき
「うん、そう思う。」「わたしは...と思うけど...」



【図6 ギャラリーウォーク・フリートークのメリットとペア学習パワーアップカード】

(6) 「ずれ」を表出させる発問（対話的で深い学び）

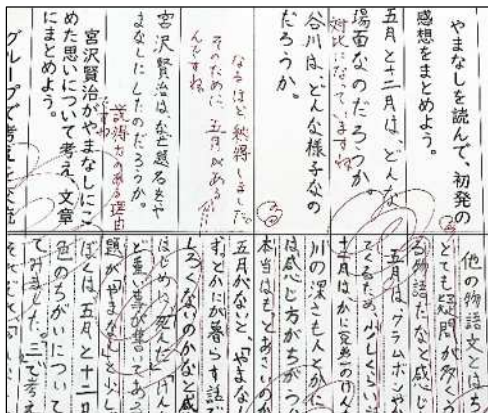
授業において対話を成立させるために、「ずれ」を表出させることが大切だと考える。自分の考えとの「ずれ」に直面した時に、問題意識が高まり、対話を必要感のあるものにする。特に、児童は立場や考えの異なる相手（異質な他者）と対話をしたいと考える。互いの考えの根拠や理由を整理する中で「ずれ」の原因が見えてくる。このように、異質な他者や同質な他者と対話を行うことで、自分の考えを捉え直したり、変化させたりしていくと考える。

教材「やまなし」での発問例 光村図書 6年

- 「やまなしを読んで、みんなで『?』を見つけよう。」
⇒ 授業の導入で初発の感想を書く活動でこの発問を行った。児童が読み取っていきたいことを主体的に見つけて、ここでの気づきを今後の発問に生かしていく。
- 「五月と十二月は、それぞれどんな場面なのだろうか。」
⇒ 叙述を根拠にしながら、五月と十二月はどんな場面なのかを考えさせた。その際、絵と言葉で表すようにしたので、読み取ったことに違いや差が生まれ、お互いに質問し合う姿が見られた。読み取れていなかったことを書き足す児童もいた。
- 「宮沢賢治は、なぜ題名をやまなしにしたのだろうか。」
⇒ これまでに読み取ったことや叙述を基にしながら、宮沢賢治が題名に込めた思いを考えさせた。五月と十二月の比較などから、作者の意図を話し合うことができた。

(7) 振り返りについて（深い学び）

写真2は、「やまなし」の学習計画表の一部である。この単元で身に付けさせたい力と児童が学びたいことをあわせて、授業の中で計画を立てていく。授業の半分は間接指導になるので、児童がどんなことを考え、どんな感想をもったのかを把握するためにも、毎時間の終末での振り返りも書くようにしている。学習への有用感をもてるように、「わかったこと」「がんばったこと」「友達の考えのよかったところ」「もっと知りたいこと」の観点を基に振り返らせるようにした。



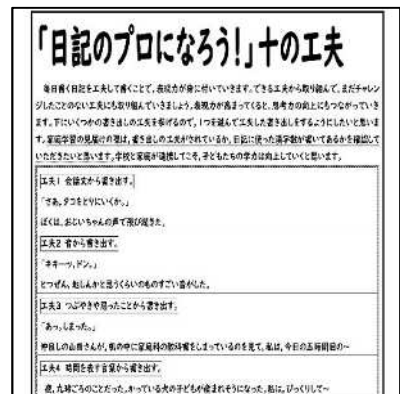
【写真2 やまなし学習計画表（一部）】



【図7 学習の振り返りポイント】

(8) 日記指導の工夫とひろば・子供の詩コーナーへの投稿（主体的・対話的で深い学び）

書く力・表現する力は読む力にもつながると考える。そのために、国語の授業で読み取ったことを基に自分の考えを表す単元では、必ず最後に文章を書く活動を取り入れている。そして、運動会やビブリオバトルなど、児童が授業で身に付けた技能を生かす場として、書く活動に取り組んできた。そして、作文・詩・俳句などを作ったら新聞に投稿している。作品が掲載されると、たくさんの人に読んでもらえるということが児童の表現のモチベーションを高めることにつながり、自分の考えを意欲的に書こうとする児童が増えてきた。現在のべ7人の作品が掲載されている。



【図8 「日記のプロになろう！」十の工夫】

さらに、家庭学習で取り組む日記を工夫して書くことで、書く力はさらに身に付いていくと考える。そこで、図8の「日記のプロになろう！」十の工夫と教科書の「言葉のたから箱」の77の言葉の中から児童が書いてみたい言葉を選んで日記を書いている。会話文から書き始めたり、心のつぶやきから始めたりすることで、表現することを楽しむ姿が見られる。今後も家庭学習と関連を図りながら、授業で学んだことを生活の場で発揮できるようにしていきたい。(図9)



【写真3 「こども五・七・Go!」と「ひろば」に掲載された児童作品】



【図9 詩を書くときのヒントカード】

(9) 検証授業（実践記録）Ⅰ

ア 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう。(教材「たずねびと」光村図書5年)

イ 目標

試しの活動に取り組み、本単元で取り組むことや解決課題を捉えることができるようにする。

ウ 本時（1／8）

単元のめあて
物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう。

解決課題

① たずねびとは、どのような人物が登場して、どんな物語なのだろうか。

② 物語の全体像をとらえるためには、どんなことを読み取ればよいのだろうか。

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ・見通す	5	1 単元の学習課題を確かめ、本時の学習について話し合う。 2 本時の学習のめあてを立てる。 試しの活動に取り組み、この単元で解決課題を考えよう。 3 学習の進め方を確認する。 (1) 試しの活動に取り組む。 (2) ペアで試しの活動を評価する。 (3) 全体で単元のめあてや解決課題をまとめる。 (4) 本時の学習の振り返りをする。	○ 題名からどのような物語かを想像させる。単元名を確認し、試しの活動に取り組むことで、この単元で解決していくことへの必要感をもち、今までの学習した物語や単元で学んだことを生かして、学習に取り組むことを確認する。 ○ ペア・全体における学習の内容を説明したり、黒板等に明示したりすることで、一単位時間の流れをつかみ、子どもが見通しをもって学ぶことができるようにする。
調べる	15	4 教材「カレライス」を使って、試しの活動に取り組む。 5 本時のめあてに対する自分の考えを一人でもとめる。	○ 1 学習に学習した「カレライス」で、人物像や物語の全体像をとらえたり、人物の気持ちの変化を読み取ったりして、文章にまとめる活動に取り組む。
まとめる・広げる	15	6 書いた文章をペアで評価し合い、この単元で解決していきたいことを話し合う。 目的 解決課題を見つけるため。 方法 ペアでお互いの文章を読み比べ、この単元ではどんなことを学習していきたいかを見つけさせる。	○ 何をどう解決するのか、活動的・方法的等を明確にした上で、文章をペアで評価し合い、興味したり、再考したりすることで、この単元の解決課題をとらえられるようにする。
味わう・高める	10	7 単元のめあてや解決課題を確認し、本時の振り返りをする。	○ 本時のめあてを確かめ、板書や自己の学びの足跡を振り返らせることで、本時の学習についてまとめることができるようにする。 ○ 本単元で取り組む活動が振り返り、解決課題を見つけることなどで、【読むこと：ノート、発言】 ○ 振り返りの観点をもとに、本時の学習を振り返らせ、自分の高まりを実感できるようにする。

単元の導入では、試しの活動に取り組み、どんな力を身に付けなければいけないのかを考えさせるようにしている。
このことにより、活動に必要な感が生まれ、主体的な活動につながる。と考える。

全体での話し合いの様子

T: 試しの活動に取り組んでみて、どうだった?
C: カレライスを読んで、勉強したことを伝えられた。
T: じゃあ、たずねびとでもできそうだね。
C: えー、まだできません。だって、たずねびとを詳しく読んでないもん。
T: 最初にどんなことを学習していけばいいですか。
C: たずねびとを詳しく読まないといけない。
C: どんな登場人物が出てくるのか。
C: 主人公の気持ちが変わるのかを調べたい。
T: 詳しく読んだ後は、どうしますか?
C: 自分が考えたことを友達と話し合いたいです。
T: 解決課題がたてられましたね。

【初発】

最初は、名前が同じだなど思っていただけ。他のあやにきょう味があって、「あやちゃんをさがしたい」と思っていただけだったけど、最後はあやちゃんや他の人が二度とひどい目にあわないように思っていたり、昔にあったことを思ったりしていた。

【单元终わり】

← 学習後

【図10 初発の感想と単元の終わりに書いた文章との比較】

初発の感想では、綾の人物像を中心に書いていた。単元の終わりでは、モデル文を参考にしながら、綾を変えたものや戦争や原爆について、これからのことを書いている児童が増えた。これまでの毎時間のまとめや学習の振り返り、全文表に引いたサイドラインを手がかりにしながら200字で文章をまとめることができた。

(10) 検証授業（実践記録）II

ア 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう（教材「やまなし」光村図書6年）

イ 目標

叙述を基にして、やまなしにはどのようなものが対比されているのかを捉えることができるようにする。

ウ 本時（5／8）

単元のめあて

作品の世界をとらえ、自分の考えを伝え合おう。

解決課題

① やまなしは、どのような人物が登場して、どんな物語なのだろうか。

② 作品の世界をとらえるためには、どんなことを読み取ればよいのだろうか。

過程	時間	指導上の留意点
つかむ・見通す	1	○学習計画表や字の足跡を基に、単元の学習課題や解決課題、これまでの学習を振り返ることで、本時の学習内容を理解し、必要感を伴うめあてをもつことができるようにする。
	2	
	5	○個・ペア・全体における学習の様子を説明したり、黒板等に明示したりすることで、一単位時間の流れをつかみ、子どもが見通しをもって学ぶことができるようにする。

単元終末の言語活動を意識させ、本時の学習の必要感をもたせる。作品の世界を捉えるために、場面ごとにどのような表現や情景描写が使われているのかを毎時間読み取っていく。毎時間の読み取りを生かして、「ずれ」の生じる発問に対して、根拠を明確にした対話活動を行う。

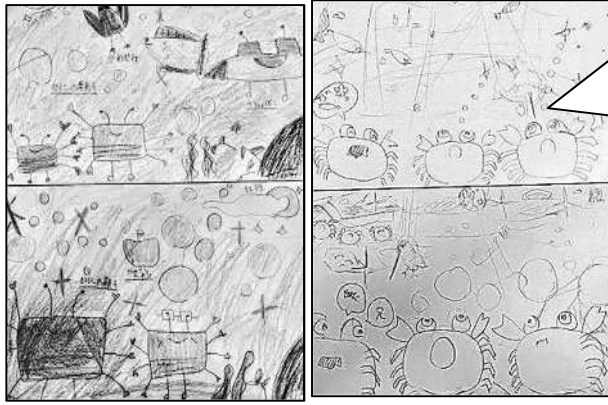
作品の世界を捉えるために、やまなしだけではなく、資料「イーハトーヴの夢」も並行読書を行い、宮沢賢治の生き方や考え方も捉えられるようにする。このことにより、やまなしの叙述だけでは読み取れなかった世界に気付きをもてるようになった。

【図11 本時の学習計画（一部）】

【サイドラインの比較】

少人数のため、全文表を持ち寄り、サイドラインの比較を全員で行うことができる。サイドラインを引いた場所が違った場合、なぜそこに引いたのかを質問し、その理由を聞かせるようにしている。理由を聞いて納得した場合は、サイドラインを加えたり、場所を変えたりする姿が見られた。

【写真4 サイドラインの比較】

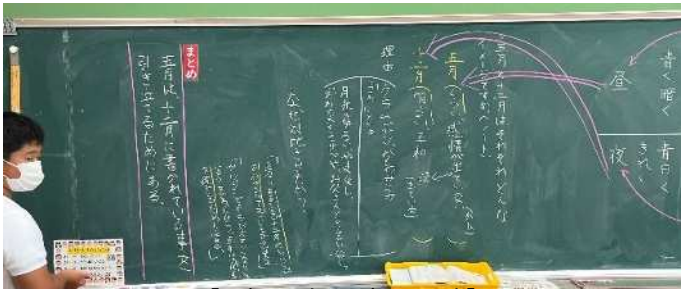


【図12 やまなしの2つの場面の絵】

【読み取りの工夫】

本時の学習の前に、2つの場面を絵や言葉で表す活動を行った。(図12) 叙述に即して、絵や言葉であらわすことで、場面や情景を読み取るヒントになっていた。やまなし、金雲母、金剛石などの難しい言葉は、辞書で調べさせた後、下図のようにロイロノートに画像を載せて対比されているものを見つける手立てにした。

ロイロノートでの対比



【写真5 自分の考えの発表】



【写真6 考えを伝え合う児童】

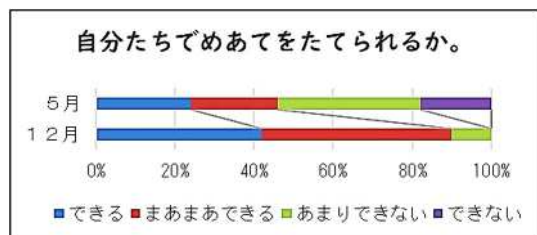
この単元の言語活動は、「作品の世界をとらえ、自分の考えを伝え合おう」である。伝え合うためには、自分はどのような考えをもったのか、その理由や根拠を文章の叙述に即しながら、発表させる必要がある。その後、よく分からなかったところや聞いてみたいこと、自分と同じだったのか違ったのかなどの視点を基に話し合うことで、自分の読みと友達の読みは一人一人違うことに気付くことができるようにした。やまなしを題名にした理由、対比が使われていること、宮沢賢治の生き方など、これまでに学習してきたことを生かして、自分の考えをまとめることができていた。

3 研究の成果と今後の課題

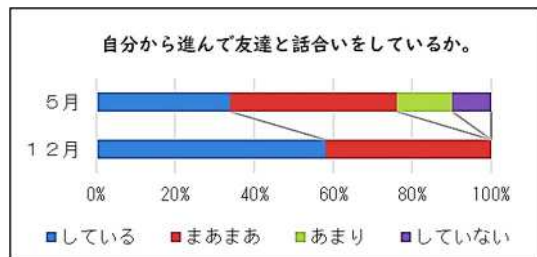
(1) 児童の変容

本研究が、児童の意識や学力にどのような変容を与えたのかをアンケートや単元テストを活用し、比較と分析を行った。

ア 5月と12月のアンケート結果を比較すると、めあてを自分たちで協力しながらたてられるようになったことが分かる。繰り返しガイド学習に取り組み、ガイドの経験を児童が積んできたことやずれを意図的に活用したことから児童に問いが生まれ、めあてを自分たちで立てようという意識が高まったからだと考えられる。



イ 右のアンケートの結果から、児童が積極的に対話に取り組み、対話を通して学習内容を理解していこうとしていることが分かる。また、教師が視点をもって、問い返しや称賛などを行うことで、対話が活性化することも分かった。自分の考えとの相違点や同じ点を比較したり、よりよい考えを話し合ったりすることで相手の考えの理由や根拠を深く知ろうとする姿が見られるようになってきている。今後も継続して取り組んでいきたい。



ウ 毎時間の終末に、振り返りを設定することで、児童の変容を見取ることができ、児童自身も学習への有用感を高めることができた。視点をもって振り返りを行うことで、授業で学んだことが自分にとってどんな意味があり、次の授業でどのように生かしていきたいのかを考えられるようになってきている。今後は、振り返りの視点を検討したり、児童に考えさせたりすることでさらに主体的な学習になっていくと考える。

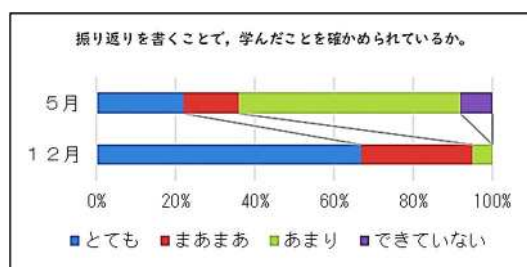


表 単元テストの平均点

	知識・技能		思考力・判断力・表現力	
	5年生	6年生	5年生	6年生
1学期単元テスト	87.5	94.4	89.5	92.0
2学期単元テスト	94.0↑	95.9↑	90.3↑	90.6↓

単元テストの平均点で比較すると、知識・技能と思考力・判断力・表現力ともに概ね上昇が見られた。6年生の思考力・判断力・表現力が落ち込んでいたので、3学期に重点的に取り組みたい。

(2) 研究の成果と課題

- 言語活動の充実を意識して、読む活動と書く活動を意図的に取り入れることで、学習目標が明確になり、児童が必要感をもって学習に取り組むことができた。また、単元のめあてや解決課題を教室に掲示しておくことで、1単位時間の導入においても、短時間で必要感のあるめあてをたてることができた。
- グッドモデルやエラーモデルを導入で示すことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。エラーモデルをどうすればよくなるかを考えたり、教室内に常に掲示したりしておくことで、児童が自分の考えを書く時の参考になり、指導事項の明確化にもつながった。
- 毎時間の終末に、振り返りの時間や書く活動を設定することで、児童の変容を見取ることができ、児童自身も学習への有用感を高めることができた。
- 文章に適した言語活動を工夫していく必要がある。「紹介する文章を書く」「リーフレットにまとめる」「話し合う」「感想文を書く」などの言語活動のバリエーションも広げていきたい。
- 一人調べの時間において、つまずく児童への支援の在り方やペアやグループ活動中の効果的な言葉掛けを今後も工夫していく必要がある。

(3) おわりに

児童の思考の流れに沿った言語活動の充実を目指していくことは、国語の力を高める上で大変意義深いものであると感じた。また、主体的・対話的で深い学びが、言葉を基に他者と豊かな関わりをもてる児童を育てることにつながるということが分かった。今取り組んでいることを基に、さらに研修を深めていきたい。

参考文献

- 小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省
- 国語授業を変える 言語活動の「方法」 白石範孝 文溪堂
- 定番教材で考える「深い学び」をうむ国語授業 全国国語授業研究会 筑波大附属小国語研究部 東洋館出版
- 対話で深める国語授業 全国国語授業研究会 筑波大附属小国語研究部 東洋館出版
- 国語科「習得・活用型学力」の開発と授業モデル2 小学校高学年・説明文編 佐藤洋一 明治図書